

| | | | | | | | | | |
|--|--|---------|---|---|--|---|--|---|--|
| | | 2 年部 | 授業、HR活動、学校行事等の生徒活動を通して、他者を思いやる心を育て、豊かな人間関係を構築させる。 | 本校の人権教育(HR等)は有意義なものでしたか。(生12 保12 教11) | 89.3(84.1) 59.5(60.9) 89.3(70.4) | A | 人権教育HRは「ハンセン病から学ぶ(1学期)」、「性の多様性について学ぶ(2学期)」、「同和問題について学ぶ(3学期)」という昨年とは異なるテーマで実施した。差別を受けた方の動画を視聴したり、外部から講師を招いて講演していただいたりしたことで、生徒が差別の実相を深く理解することにつながったと考える。一方で、保護者の「分からない」が33.3%と割合が高い。学年通信や人権教育だよりを通じて取り組みを発信しているが、保護者あて文書が確実に渡るように指導していきたい。 | A | |
| | | 3 年部 | 学校行事・生徒会活動・部活動・清掃等に主体的に取り組ませ、様々な場面で、自分で考え自分の言葉で表現できる、たくましく心豊かな生徒を育成する。 学校内外の諸活動を通して、他者を思いやる心を育て、互いに認め合い、支え合う豊かな人間関係を構築させる。 | 本校の人権教育(HR等)は有意義なものでしたか。 (生12 保12 教11) | 89.3(84.1) 59.5(60.9) 89.3(70.4) | A | 今年度は、新型コロナウイルス感染症の制限のない学園祭であったが、生徒会の生徒が中心となり全校生徒をまとめ、より良い形へ変化させつつ成功させることができた。部活動でも、男子バレーボール部、ソフトボール部がインターハイに出場するなど、各部活動が少ない人数ながら努力を重ね、特に最後の県総体では素晴らしい活躍を見せてくれた。学習環境をきれいにするという目標を掲げ、教室の美化に努め、多くの生徒が自ら清掃に取り組み、自分に与えられた仕事を責任を持って行うことができた。昨年度に比べ欠席も大きく減少しており、自らの生活リズムを確立するなど成長が見られた。基本的に他者を思いやる心を持った生徒の集団であり、友人の面接練習や志望理由書作成など、お互いにサポートし合う姿が見られた。しかし、集団をまとめ、引っ張っていくことができる生徒は少なく、リーダーシップという点では物足らなさがあり、自分の言葉で表現できる力を育むことが必要である。 | A | |

*「評価」欄の基準は肯定的評価の% : A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満

| 教育目標 | 教育重点目標 | 担当 | 目標達成のための方策 | 学校評価質問項目 (評価項目) | 肯定的評価% | 生徒 保教 | 評価 | (自己評価) 概評と改善策 | 学校運営協議会評価 | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---------|---|---|--|----------|----|---|-----------|----|--|--|---|---|---|--|---|--|--|---|--|
| | | | | | | | | | 評価 | 評価 | コメント | | | | | | | | | | |
| (1) 広く知識を求め、不断の勉学に努める生徒を育成する (2) 自己を大切にすると共に、他者を思いやることのできる心豊かな生徒を育成する (3) 積極的に心身の鍛錬に努める生徒を育成する | ○ 主体的な学びを基盤とした学力の強化 【学力】 ① 授業の質の充実 ② 家庭学習の充実 | 教務 | 授業公開や中学校との連携、他校視察を行い、ICT機器を効果的に活用して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を展開するための研究を行える体制を作る。 | ICTの効果的な活用等により、授業の質は充実していますか。(生2保2教2) | 76.7(82.8) 61.1(53.2) 89.3(88.9) | | B | ・ICTの活用に関して 生徒の肯定的割合が昨年と比べ減った。クロームブック使用して2年目となる2年生にとってはマンネリ感があるかもしれない。保護者には、公開授業や面談等で活用場面や成果を見てもらう機会があり、昨年と比べると活用状況を理解してもらっているように見て取れる。教員は、現在取り組んでいるように、生徒間でもやり取りができるような活用も含め、今後もより効果的な活用を研究していきたい。 ・授業・家庭学習に関して 教員全員が公開授業をする、ICTの活用研修を設ける、評価の研究を進めるなど、指導と評価の一体化を意識して授業改善に取り組んでいる。生徒は授業に対する取り組みは良好だが、家庭学習に関しては、教員の求めるレベルと差があるように見て取れる。生徒は課題や宿題を終えて満足しているようだが、より主体的に学びを進められるように、生徒にもわかりやすい到達度を示したり、問題提起を工夫していきたい、また、学習時間調査を学年部と協力して実施回数を増やし、より短いスパンで自分の学習を振り返ることができるようにしたい。 | B | B | ・ICT活用した授業や課題の配信など先生方のスキルアップとともに生徒の学習意欲もあがっていくと考えるので、今後も効果的な活用方法を考えて欲しい。 ・主体的な学びは授業参観をさせてもらい感じる事ができたが、対話的な学びができているかが今後の課題であるように感じた。 ・やはり、ICTを効果的に活用することが重要である。 | | | | | | | | | | |
| | | | 授業アンケートなどを通して、生徒に授業の振り返りをさせることにより、授業改善につなげるというPDCAサイクルを確立する。 | 授業は、自分の興味関心を高め、学力を向上させるものになっていますか。(生1保1) | 91.9(92.1) 72.2(69.3) | | B | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 教科主任者会や研修会等で評価方法の改善を進める。 | 授業改善に向けた授業公開・参観はきちんとなされているか。(教1) | 89.3(81.5) | | A | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 各教科や学年会と連携し、自ら進んで学習に向かうことができる仕掛け、課題の出し方等を検討する。 | 1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生4保3教3) | 75.4(75.6) 64.3(63.8) 39.3(29.6) | | C | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 教育開発 | 教務部と連携し、授業改善に取り組む仕掛けを行う。また、先進校視察などの情報収集を行う。 | 学校はICTを効果的に取り入れるなどして授業改善を図っていますか。(生2保2教2) | 76.7(82.8) 61.1(53.2) 89.3(88.9) | | B | | | | | 教務部、授業力向上PJTと連携し、各教科で「主体性を育む」ための7つの力に優先順位を付けていただいた。その上で、その資質・能力を育成する授業実践を行っていただいた。また、ICT活用(スタディサプリの終礼前活用、モクスコの活用した英語学習)が多様な学びの形態に資することから今後も積極的な活用を促していきたい。また、今後は、主体性の評価の確立を目指し、指導と評価の一体化を図りたい。そのための改善策を以下のようにしたい。 ・キャリアパスポートの全体計画を共有し、有効的な活用方法を考える ・引き続き、先進校視察や教職員研修を行い教科横断的な探究学習や観点別評価など研修を図る。 ・「めあて」と「振り返り」をセットにした授業実施 ・スクールタクト、フォームを活用した授業実践の推奨 | B | B | ・外部からでは評価が難しい。 ・高校を卒業してから、パソコンを使うことは必須となっている。高校生がChromebookを使う場面を作り、情報活用能力の育成を学校で考えてもらいたい。 | | | | | | |
| | | | | 学校は生徒が自ら進んで学習に向かうことができるような仕掛けづくりをしていますか。(保4教1) | 49.2(52.6) 89.3(81.5) | | B | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 1 年部 | アンケート調査等を用いて定期的に生徒面談を実施し、日々の学習活動の振り返りや目標設定を促す。 | 先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生9保10) | 92.8(91.6) 86.5(82.1) | | A | | | | | | | | | 学習時間調査や進路希望調査の資料を使い、面談を定期的におこなった。面談の実施が、日々の学校生活の振り返りや目標設定について一定の成果を上げていると考えている。全体での学習時間調査以外にも、学年独自で不定期に学習時間調査をおこなった。学習時間調査の実施は生徒への意識づけにもつながっていると感じている。調査の結果、平均時間は増加の傾向が見られるものの、まだ目標に満たないので、今後は全体への呼びかけに加え、学習時間の少ない生徒を中心に個別に面談をおこなうことで意識を高めさせていきたい。 | B | | | | |
| | | | | 1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生4保3教3) | 75.4(75.6) 64.3(63.8) 39.3(29.6) | | B | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2 年部 | 生徒がICTを効果的に用いて学習に向かうような授業を充実し、学習時間調査や生徒面談を通じ、目標を設定させることで主体的に家庭学習に向かわせる。 | ICTの効果的な活用等により、授業の質は充実していますか。(生2保2教2) | 76.7(82.8) 61.1(53.2) 89.3(88.9) | | A | | | | | | | | | | | | ・一人一台タブレット端末が配布されてから2年目となった。各授業では、formsで小テストを実施したり、スクールタクトやJamboardを用いて課題を配信したりするなど、ICTを活用した授業の実践を充実している。また、「モクスコ」という英語学習アプリを魅力化予算で導入して家庭学習を充実させたり、総合的な探究の授業では、canvaを用いて発表用資料やポスターを作成したりするなど、生徒がICTを活用して主体的に学習に取り組む場面が多くあった。しかし、保護者の24.6%がICTの活用について「分からない」と回答しており、今後の授業公開週間では更なる保護者の参観を促したい。 ・定期的な面談や生活アンケートを通じ、学校生活の振り返りや進路目標の設定に関してこまめな声掛けを行ってきた。進路志望調査では、4月に未定者が8人いたが、10月は0人となり、進路検討会や進路見学会等を通じて、進路目標が明確になりつつある。 ・家庭学習時間調査では、6月の平均は、平日149分、休日158分であり、11月は平日150分、休日177分となった。平日の放課後は部活動に加え、地域探究学習や雲南市のスペシャルの準備や活動に積極的に取り組んでいるためだと思われるが、家庭学習のさらなる充実に向けた働きかけを行いたい。 | B | |
| | | | | 先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生9保10) | 92.8(91.6) 86.5(82.1) | | A | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生4保3教3) | 75.4(75.6) 64.3(63.8) 39.3(29.6) | | B | | | | | | | | | | | | | | |

* 「評価」欄の基準は肯定的評価の% : A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満

| 教育目標 | 教育重点目標 | 担当 | 目標達成のための方策 | 学校評価質問項目 (評価項目) | 肯定的評価% | 生保教 | 評価 | (自己評価) 概評と改善策 | 学校運営協議会評価 | | | | |
|--|---------------------------------|----|---|--|------------|------------|----|--|-----------|---|---|--|--|
| | | | | | | | | | 評価 | 評価 | コメント | | |
| (1) 広く知識を求め、不断の勉学に努める生徒を育成する | ○ 地域や大学との連携を基盤としたキャリア形成の支援【社会力】 | 総務 | 報道機関への投げ込み、ホームページ、facebook、各種広報誌等を通して、教育活動の様子や成果を情報発信する。 | ホームページや Facebook、学校便り、緊急メール等により、学校の様子が伝わっていますか。 | 82.6(75.3) | | B | 特定の教員に業務負担が偏ってしまったことにより、情報発信の迅速さに欠ける場合があった。今後の改善点として、HPにあげる記事を作成する担当者を校務分掌ごとに設置していただけたらと考えている。同時に、情報発信に向けて業務アシスタントとの連携を強化していきたい。 | B | | ・フェイスブックが頻繁に更新されていることは嬉しいことだ。 ・情報発信するものや方法を工夫してほしい。 ・Instagramの開設など中高生年代がアクセスしやすい環境が整うことは大切であるが、何を情報として上げるかがもっと重要ではないか。単にお金を掛ければよいというものではないような気がする。 | | |
| | | | 学校便りを全保護者、地域へ配布し、近隣小中学校等への送付、各種学校案内イベント等でも配布する。 | (生10 保11 教9) | | | | | | | | | |
| (2) 自己を大切にすると共に、他者を思いやることのできる心豊かな生徒を育成する | ① 系統的・組織的なキャリア教育 | 教務 | 探究学習や進路学習を中心に図書館を利用した授業を依頼したり、図書委員会で企画を考える。 | 図書館を活発に利用していますか。(生3) | 22.9(42.7) | | D | 図書館でのイベントをいろいろ企画したが参加者が少なかった。クロームブックを1,2年生は全員持っているので、書籍で調べるといった機会は少なくなっているのではと分析する。3年生で推薦入試の時期に小論文の書き方に関する書籍を借りる生徒は一定数いた。進路関係の書籍が充実していることをもっと進路部や3年部に周知し、生徒に利用を勧めるようにしたい。また、総探の課題解決のテーマを「大東高校の魅力化」として、図書館の利用の促進を生徒目線で考えさせることもできるかもしれない。 | D | | ・図書館を「本を読む場所・借りる場所」ではなく「集う場所」として活用する方法を考えていただきたい ・司書さんの働きかけが生徒の行動を変えることがある。 | | |
| | | 生徒 | 相談で得た情報を担任・SC等と共有を図り、迅速な対応・支援ができるように努める。 | 本校では一人ひとりの生徒を大切にしている教育が行われていますか。(生13 保13) | 88.4(89.0) | 73.8(73.7) | | | | | | A | ・いろいろな生徒の健康状態に応じて対応できた。心配な生徒などスムーズにSGと繋ぐことができ、その後の対応など情報共有することができた。 ・担任の先生方には、各学期の生徒面談等で生徒の状況確認に十分な時間を確保していただき感謝している。今後も相談できる環境作りを努めたい。 ・生徒支援委員会やいじめ防止等対策委員会など組織的な対応はできている。気になる生徒がいれば早期に相談できる環境づくりに努めたい。 |
| | | | 生徒自らが自分の健康状態について知り、健康な生活の実践に対する意識を養わせる。 | 本校では生徒理解に基づいた組織的な対応が行われていますか。(保14 教14) | 61.9(59.0) | 85.7(70.4) | | | | | | | |
| (3) 積極的に心身の鍛錬に努める生徒を育成する | ② 高大連携の推進 | 進路 | 個別面談、進路希望調査、進路検討会等を通して、生徒の実態把握に努めるとともに、教職員の共通理解を図る。 | 先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生9 保10) | 92.8(91.6) | 86.5(82.1) | A | 各学年部による進路希望調査、3年生進路検討会、模試分析、1,2年生文理・コース選択検討会などで生徒個々の実態把握に努め、教職員間の共通理解を図ったことが、個別面談の高評価につながったと考えている。来年度は1年生を対象としたスタディーサポートを4月と3月に実施する予定なので、それが教員の生徒理解や生徒の自己理解につながることを期待している。3年生の進路検討会に関しては、教員間の共通理解の場として重要であるので、参加者がさらに増えるよう工夫をしていきたい。おしプロ通信を生徒に示したり、看護体験の案内をしたりしたことで、生徒がさまざまな体験活動に積極的に参加してくれた。担任の先生方の紹介の仕方やおかげだと思っている。「進路の手引き」をもとに、進路見学会の行事等により、計画的な進路学習を全学年で実施したことで進路に対する意識が高まり、生徒一人ひとりの進路選択の一助となったと考えている。進路見学会はバス代が高騰したため想定を大きく超える出費となり、キッズ・コーポレーションにかなりの負担をもらったため、来年度は取りやめて、代わりに体験型の進路ガイダンスを9月に実施する予定である。大学、専門学校のオープンキャンパスやおしプロの講座がいろいろと開催されているので、さらに積極的な参加を生徒に促したい。3年生の平日補習、夏季補習、冬季補習を行い、学力強化を図った。また、模試結果をまとめて先生方に示し、各教科で学力向上のための対策を検討していただいた。特に3年生では、第2回進路検討会で各教科から学力強化策を発表していただいた。また、3年生では、就職・公務員希望者や大学・短大・専門学校への進学希望者に対する面接・小論文指導を先生方に行っていただき、個々の生徒の進路希望に応じた支援を行った。保護者対象の進路講演会・進学マネープラン説明会や進路日より、進路に関する情報発信を行った。 | A | ・出席率の低下が少し気になる。原因はさまざまであるが、コロナ禍から「無理せず」という風潮が強くなってきたことも影響しているか。 | | | |
| | | | オープンキャンパスや体験活動の情報を整理して生徒に示し、自主的な参加を促す。 | 分掌内評価 | | | | | | | A | ・個人面談など充実していることは出口の保障をする意味で評価できる。 ・おしプロ通信への反応が良いことは進路情報を得たい気持ちの表れであろう。 ・生徒が積極的に外へ出ることを支援してほしい。 | |
| | | | 「進路の手引き」を通じて、3年間を見通した進路活動を意識させる。 | 「進路の手引き」、進路ガイダンス、企業・大学等見学などを通しての進路指導は、自分の進路決定に役立っていますか。(生6 保8) | 89.3(89.5) | 83.3(78.2) | | | | | | | A |
| | | | 教科会・学年会で模試結果を分析し、補習や面接・添削指導等、個々の生徒の進路希望に応じた学力向上のための支援を行う。 | 分掌内評価 | | | | | | | | | |
| | | | 保護者対象の講演会・説明会の実施や進路日より、進路に関する情報発信を行う。教育開発部や教科会と連携して、1年次から対策をしていく。 | 分掌内評価 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|----------|---|---|--|---|--|---|---|
| | 教育 開発 | 学年会への参加や年間計画作成、指導案作成などを行い、探究活動の支援をする。 | 「総合的な探究の時間」に主体的に取り組み、地域課題について学びを深めることができましたか。 (生5 保5 教4) | 88.8(90.3) 63.4(62.2) 64.3(74.1) | B | 学年会・ine・雲南市と連携をとり、年間計画に沿って探究活動を実施することができた。また、学年会からの積極的な働きかけにより、スペチャレなど主体的に社会との関わりを持つ生徒が増加した。一方で、保護者評価 E(30.2%) 教員評価 C(32.1%)の改善を図る必要がある。 ・探究アワードを広報する(雲南CATVなど) ・探究活動の趣旨や具体的な方法を共有する時間の工夫。(例えば、HRの裏で副担任の先生方と共有するなど) | B | ・探究の過程の中で学ぶ社会力は大きいものである。担当学年のみならず全教職員がかかわる必要があるのではないかと。 ・中学校との連携した探究活動を工夫してほしい。 ・地域協働活動の一貫として長期の連携も大切である。 |
| | 1 年部 | 地域とのつながりを大切に、総合的な探究の時間等を通して、視野を広げさせ将来の生き方や進路について考えさせる。 | 探究活動やキャリアパスポートの利用などにより、さまざまな学びが自らの進路につながりかけとなっているか。(生7 保9 教4) | 84.4(87.7) 59.5(59.0) 64.3(74.1) | B | 総探では、1学期は主に「自己理解」、2学期は「地域理解」の内容の活動をおこなった。特に2学期の「ゲストトーク」の時間では地域の方との交流を深めることができ、自己の視野を広げたり、将来の生き方を考えたりするよい機会になったと感じている。キャリアパスの利用については今後も継続して、有効活用できるよう検討していきたい。 | B | |
| | 2 年部 | 総合的な探究の時間や進路見学会等の様々な学習活動を通して、視野を広げ、自分自身を見つめ直し、将来の生き方について考えさせる。 | 「総合的な探究の時間」に主体的に取り組み、地域課題について学びを深めることができましたか。 (生5 保5 教4) | 88.8(90.3) 63.4(62.2) 64.3(74.1) | A | 総合的な探究の時間では、1学期に県立大の先生のご指導のもと、雲南市役所のHPから各自が雲南市の課題解決に向けた仮説とアクションプランを発表する個人探究を実施した。2学期は、地域パートナーを自分たちで見つけ地域の方々を笑顔にする活動を通じ、地域課題について学びを深めた。また、沖縄研修では沖縄の歴史や文化等を教科横断的に学んだり、永井隆記念館館長の講演を聴いたりし、広い視野で学ぶことができた。ただ、「分からない」と回答した保護者が30%と高いので、2月の探究発表会は保護者の参観を呼び掛けている。 | A | |
| | 3 年部 | 生徒・保護者面談を実施し、学習時間調査、進路希望調査、生活アンケート等を用いて学習状況、進路や学校生活について情報交換や支援を行い、進路目標を実現させる。 | 先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生9 保10) | 92.8(91.6) 86.5(82.1) | A | 面談や進路学習を通して、社会に目を向けさせ、自分の進路について考えさせることができた。毎日学校に登校し、きちんと授業を受け部活動に対しても真摯に向き合うなど、当たり前のことをしっかりやらなければならないということを理解した行動が取れるようになった。文Iクラスについては、家庭学習時間の確保が大きな課題であり、手立てが必要である。 | A | |

* 「評価」欄の基準は肯定的評価の% : A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満